

われわれが毎日お世話になっている信号機。その起源は、イギリスで鉄道が開通した1825年、列車が近づいたことを知らせる担当者が、乗馬姿で赤旗を振って警告したのが始まりです。

道路交通用の
燈火式信号

装置は、1868年イギリスのロンドンに設置された赤燈と青燈のガス灯が最初です。電気式のものとしては、1919年米国ニューヨークの五番街に横並びの赤、黄、緑の円形

投光機が設置されました。

日本では、1919(大正8)年9月、手動式信号機が上野警察署長らによつて考案されましたが、赤地に「トマレ」、青地に「ススメ」と書かれ

交通信号機の昔と今

た標識板を回転させたものでした。その後、燈火

式交通信号機は、1930(昭和5)年6月、アメリカから導入され、同年11月に日比谷交差点に設置。国産第1号は昭和7年でした。



交通安全10メモ